

(3) 伯備線第一日野川橋梁改良替函基礎の設計施工について

米子鉄道管理局 本 岡 和 雄

第一日野川橋梁は伯備線江尾—伯耆溝口間に架設された橋台間長 $76^m.88$ 支間 5.05 I けた2連、支間 19.72 上路鉋けた2連支間 $12^m.9$ 上路鉋けた2連の橋りょうである。日野川は日本海に注ぐ急流河川で年々河床が洗掘され本橋梁橋脚基礎も洗掘され、特に流心にあつた3号橋脚基礎は露出して危険の威に達し、昭和30年11月から 30km/h の列車徐行をし早急に改良の必要にせまられていた。そこで3号橋脚をはさんで橋脚を新設することになったが、基礎地質が互石交り砂礫層にして杭打工法も井筒工法も又橋けたと河床とはなれ不足のため普通の替函工法では不可能であるので種々検討の末大壘式替函工法という、いわば簡易替函工法で施工することになったのであるが、これについて設計施工の結果を述べていたと思う。